

# ICUにおける看護計画

信州大学附属病院 集中治療部 救急部：

市川 弥生・坪田 芳枝・竹村 滋子  
阿部 秀子・吉田美恵子・大谷 妙子  
吉沢 秀美・田中 昭子・丸山 公子  
堀金 節子・鰐川 洋子・加藤祐美子

## 1. はじめに

当ICUでは、1990年よりPOSを導入し、看護計画を立案してきた。しかし、問題点の把握と、個々の患者に対する、適切な看護計画の立案が不十分であった。そこで、POSにNANDA（北アメリカ看護診断協会）の看護診断を組み込んで、独自の看護計画立案の基準を作成した。その結果、入室時より、その患者の身体面だけでなく、心理、社会面にも目を向けた看護計画が立案された。そして、経験年数に関係なく同じレベルの看護を行うことが出来たので報告する。

## 2. 方法

- 1) 看護計画立案の基準作成（以下「基準」とする）
- 2) 基準の作成前後の看護計画を評価するための監査項目の作成と監査
- 3) スタッフに対して、基準使用による効果をアンケート調査

期間 1992年4月～1993年7月

## 3. 結果

- 1) 基準は、看護診断、目標および具体策の3つからなる。

看護診断は、問題点とその原因を結び付けて表現し、更に、予測される問題点もあげた。NANDAの看護診断をもとに問題点は統合した。しかし、NANDAのネーミングは翻訳すると解りにくいため、私達が日常の看護の場で使用している用語で記載した。

目標は、患者にとって達成可能な状態を患者が主語になるように表現した。目標が数値で表現できるものは、具体的に記入した。

具体策は、実施する看護婦への指示であり、勤務者が交代しても同じ内容の看護が行えるように、観察計画、ケア計画、教育計画の3つの側面から記載した。観察計画は、患者の状態を把握するために観察すべき項目を列記した。ケア計画は、目標達成のための薬物治療、処置、患者の好み、看護行為を具体的に記載した。教育計画は、患者や家族に話した言葉や指導した内容を記載した。（表1）

初期計画は、基準を基に記入方法を徹底した結果、入室時より全患者に対して立案され、各勤務終了時に看護診断ごとに評価した。さらに入室翌日と、患者の問題点が解決されない場合、新たな問題点が生じた場合には、計画の再評価、修正・追加を行った。

- 2) 監査は、看護計画の看護診断、目標、具体策ごとに行った。

①看護診断は8項目の監査をおこない、得られた情報を分析し、心理、社会面も含めた問題点が

把握されているかを評価した。(表2)

目標は4項目の監査をおこない、達成可能な、具体的な目標が挙げられているかを評価した。

(表3)

具体策は8項目の監査を行い、患者の身体面、心理、社会面の観察が漏れなく行われているか、個々の患者にあった看護が行われているかを評価した。また、勤務者が交代しても同じ内容の看護が行われたかを評価した。(表4)

②監査方法は、監査項目に基づき、各項目ごとに、80%出来ていると判断した場合には「はい」、出来ていないと判断した場合には「いいえ」で評価した。スコアは、30例中「はい」と評価された例数の割合を%で表した。

### ③監査結果

看護診断の監査は、基準作成後では、原因、成文化、合併症、修正・追加、個別性の5項目で作成前に比べ、高い評価が得られた。心理・社会面は、基準作成後は作成前に比べ高い評価が得られたが、65%にとどまっていた。(図1)

目標の監査は、数値、個別性、達成可能な3項目で作成前に比べ、高い評価が得られた。(図2)

具体策の監査は、全ての項目で作成前に比べ、高い評価が得られた。しかし、患者の状態に応じた具体策の修正・変更は70%にとどまっていた。(図3)

図1. 看護診断：問題点

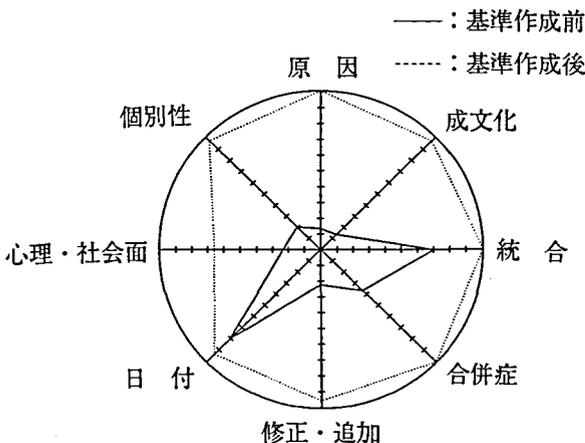


図2. 看護診断：目標

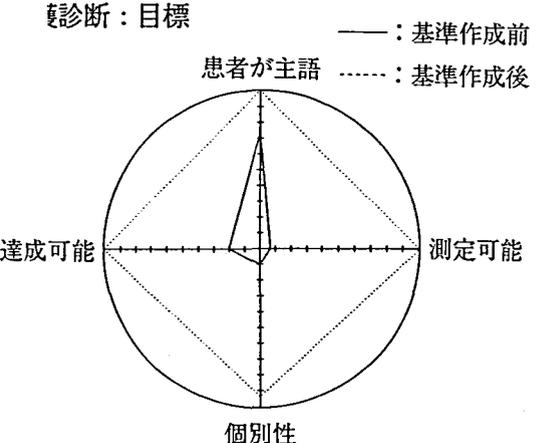
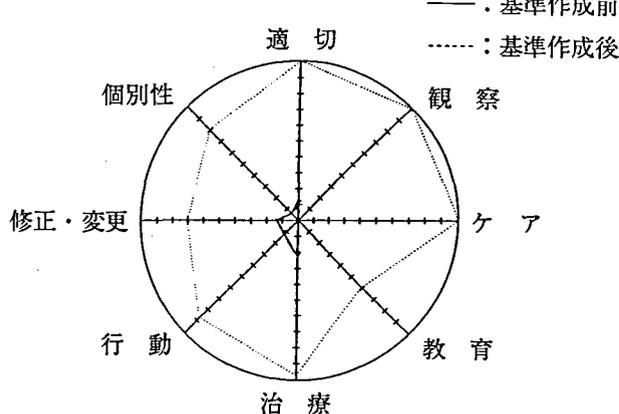


図3. 看護診断：具体策



#### ④アンケートの結果

基準作成後の看護計画を見て、90%以上のスタッフが①その患者の状態や問題点が把握できるようになった。②目標が具体的にあげられ、評価しやすくなった。③具体策はわかりやすく、実行しやすくなったと答えている。しかし、患者の状態が変化した時、看護計画変更の必要性は全スタッフが認識しているが、実際に評価、修正しているのは70%だった。(表5)

#### 4. 考 察

NANDAのネーミングにとらわれず、自分達が日常の看護の場で使用している用語で看護診断を記載した。それにより①看護計画を一目見て、患者の状態や問題点が把握できるようになった。②予測される問題点もあげた事により、合併症予防の看護も展開できるようになった。③生命の維持が最大の使命であるICUにおいても、患者を広い視野で観察し、心理・社会面の問題点にも目を向けられるようになった。④観察、ケア計画は、各疾患の看護ポイントがわかる内容で記載されているため、勤務者が交代しても同じ内容の看護が提供できるようになった。⑤教育計画は、患者に実際に話した言葉を記載しているため、患者への説明と指導の統一が出来た。

現在、患者の状態が変化した時点で、看護計画が修正・追加されるように、また個々の患者にあった具体策が立案できるように看護診断ごとにSOAPで記録している。

今後も、監査の結果を患者中心の看護にフィードバックさせ、患者の変化に応じた質の高い統一された看護を継続させて行きたい。

#### 5. 結 語

私達が作成した看護計画立案の基準を使用した結果、統一された看護が提供できた。

#### 6. 引用・参考文献

- 1) 中木 高夫：POSをナースに・医学書院・1989
- 2) 中木 高夫：最新・看護計画ガイド〈外科編〉・照林社・1992
- 3) 中木 高夫：最新・看護計画ガイド〈内科編〉・照林社・1992
- 4) 小川 協子：POSの現状と今後の課題・看護教育32-12・1991・第13回POS研究会報告
- 5) 山口 きよ：記録と監査と修正をしてこそ意味のあるPOS・看護教育30-12・1989・第11回POS研究会記録
- 6) 常盤 明子：看護記録の現状と問題点・看護教育32-12・1991・第13回POS研究会報告
- 7) 稲垣 聖子：手術室におけるPOS実施の評価・第20回看護総合・1989
- 8) 柳沢恵利子：プロセス監査の試み・看護教育・31-11・1990・第12回POS研究会報告
- 9) 松井 美香：救急部門におけるPONRの充実・看護教育29-12・1988・第10回POS研究会報告

表1)

## 看護計画立案の基準

看護診断=問題点	目 標	具 体 策
<p>成因（原因）の句＋                      プロブレム（健康状態の変化の句）でネーミングする</p> <p>①その問題点がなぜ起こったのかを表す（原因の句）と結びつけて表現する。</p> <p>②〈原因の句〉は2～3行になっても構わない。</p> <p>③医師と共同する領域は共同問題としてあげる。</p>	<p>①こうなって欲しい（期待される）結果を患者が主語になるように表現する。</p> <p>②こうなって欲しくない状態（合併症など）を患者が主語になるように表現する。</p> <p>③具体策の効果が評価できるように測定可能な期待される結果で、数値をいれられるものは記入する。</p> <p>④患者にとって達成可能な個別的目标とする。</p>	<p>実施する看護婦に対する指示と考える。</p> <p>①目標達成を容易にするようなふさわしい薬物治療・処置・患者の好み・看護行為を含める。</p> <p>②具体策を3つの側面に分けて立案する。</p> <p>Dx) 観察計画：                      目標が達成されたか評価できる項目、合併症の早期発見できる項目</p> <p>Rx) ケア計画：                      実施する看護婦に対する指示と考え、具体的に記載する。</p> <p>Ex) 教育計画：                      自分達の看護計画の全てを患者にアピールし、患者に話した事、指導した事を記載する。</p>

表2)

## 監 査 項 目

監 査 項 目<問題点>	は い	いいえ
①その問題点がなぜ起こったのかを表す原因句が記載されているか		
②原因の句が2～3行内で成文化されているか		
③統合できる問題は統合して記載されているか		
④今後予測される合併症等の問題点が記載されているか		
⑤問題点は適当な時期に修正・追加されているか		
⑥日付・#ナンバーが付されているか		
⑦心理・社会的側面の問題点が記載されているか		
⑧個別性のある問題点が記載されているか		

表3)

## 監 査 項 目

監 査 項 目<目標>	は い	いいえ
①目標は期待される結果を患者が主語になるように記載されているか		
②測定可能な数値が記載されているか		
③個別性のある目標が記載されているか		
④達成可能な目標が記載されているか		

表4)

## 監 査 項 目

監 査 項 目<具体策>	は い	いいえ
①問題点に対して適切な具体策であるか		
②患者の問題点に沿った看護上の観察計画が立案されているか		
③患者の問題点に沿った看護上のケア計画が立案されているか		
④患者の問題点に沿った看護上の教育計画が立案されているか		
⑤治療方針と並行した具体策が立案されているか		
⑥勤務者が交代しても同じ行動がとれる内容で記載されているか		
⑦常に患者の状態に応じて具体策が修正・変更されているか		
⑧個別性のある具体策が立案されているか		

表5)

## アンケート調査の結果

	はい	いいえ
1) その患者の状態や問題点が把握できるようになりましたか	90	10
2) 目標が具体的にあげられ、評価しやすくなり、具体策はわかりやすく 実行しやすくなりましたか	90	10
3) 患者の状態が変化した時、問題点変更の必要性を認識していますか	100	0
4) 問題点変更の必要性を認識し、実際に評価、修正していますか	70	30